

具体的なスケジュール

※予定時間が変更になる場合がございます

五月四日 吹浦口之宮宵祭

●御神輿地区渡御巡幸

神社出発(午後〇時四十五分) |
 西 浜 着(〇時五十分) |
 ふらっと 着(一時) |
 遊楽里 着(一時十五分) |
 横 三 着(一時二十五分) |
 特別養護老人ホーム
 にしだて 着(二時三十分) |
 湯之田 着(二時四十分) |
 鳥 崎 着(二時五十分) |
 滝ノ浦 着(二時) |
 女 鹿 着(二時十五分) |
 小野 曾 着(二時三十五分) |
 箕 輪 着(二時五十分) |
 落 伏 着(三時) |
 神 社 着(三時二十分)

●諾冊二尊の舞奉納

午後五時三十分～五時五十分
 於 神社中島
 《初めの舞は、鳥甲をかぶり、青色の面をつけ、白衣に狩衣を着て、鉾を持ち、海を鉾でかきまぜて滴り落ちる滴が固まって日本の国ができたという神代の故事を表す舞で、次の舞は、黄色の面をかぶり、耕作や機織を現す仕草の舞です。》

●大小の舞奉納

午後五時五十分～六時
 於 神社中島
 《この舞は、男子二人が狩衣を着て、日月をつけた立烏帽子をかぶり、扇を持って、笏拍子にあわせて、古歌「見渡せば、柳桜をこきまぜて 都ぞ春の 錦なりける」(古今集・素性法師)を二回繰り返してから舞う田楽舞です。》

●花笠舞奉納

(以上 田楽保存会)
 午後六時三十分～七時
 於 神社本殿広場
 《この舞は、吹浦田楽の代表的な舞で、旧社人(坊中)十六歳以上の長男、八人で舞います。舞人は、紋付き袴をはき、腰に太刀を帯き、白櫛をかけ、頭に三尺三寸の円輪(竹製・紙を張り、宵祭りは桜や山吹の生花、本祭は真つ赤な造花をさし、周囲に八垂の紙垂をつける)をかぶり、楽人の笛、太鼓の拍子に合わせて、時に優雅に、時に勇壮に舞います。五月四日の宵祭りの時は、本殿脇の広庭に、四方にもちの枝を立て注連縄を張った斎庭(ゆにわ)で舞います。》

●宵宮神事

午後七時～七時三十分
 於 神社拜殿
 《例祭の前夜に行われる祭で、夜宮祭(とこみやさい)ともいいます。神社の拜殿で、神社役員、祭

五月五日 吹浦口之宮例大祭

●例大祭神事

午前九時～十一時 於 本殿
 《神社で一年に一回奉仕される祭です。神社の大祭中、最も重要なもので、氏子崇敬者の安泰を祈る祭です。期日は神社の由緒、慣例に基づいて定められ、当社の例大祭は、古来、旧暦の四月八日でした。これは貞観十三年(八七一年)に鳥海山の噴火で大きな被害が生じ、時の朝廷より祈禱の命令が出されたことが起源と伝えられています。明治維新後、新暦の五月八日に改められ、平成三年より五月五日に斎行されています。》

●子供樽みこし

(吹浦小五・六年生、保護者)

●吹浦みこし (吹浦みこし会)

●還御祭神事

午後三時二十分 於 神社拜殿前
 《神様の御分霊が乗られた神輿が町内を渡御巡幸されて、本社(神殿)におもどりになられる祭です。神社役員、祭協賛会長、及び関係者が参列し、無事に祭事が終わったことに感謝する祭です。》

●御頭舞奉納

午後三時三十分

●巫女舞奉納

午後三時四十分

●御神輿渡御行列

午後一時二十分～三時二十分
 (コース) 神社～西樋～宿町～一本木～宿町～神社

●台花持ち

花笠舞奉納
 午後三時五十分 於 神社舞台

